会報

第190号

題字出口草露
発行者　〒679-5322佐用郡佐用町上石井685　安藤直彦方
兵庫県歌人クラブ
会計　〒655-0039神戸市垂水区霞ヶ丘5-1-14　池本登代子
振替　01110-5-6903
印刷所　㈱甲南堂印刷

ふれあいの祭典 兵庫短歌祭

県民会館９Ｆ けんみんホールにて

文部科学大臣賞
三津野幸代さん（神戸市）

ジュニア部門兵庫県知事賞
赤松　雅さん（南あわじ市立三原中学校）

談論風発の壇上＝けんみんホール

ふれあいの祭典「兵庫短歌祭」が11月30日（土）午後1時からけんみんホールにて開催された。入賞者の表彰式、作品の講評に続き、石橋妙子氏を囲んでの熱心な鼎談が行われた。

受賞される三津野幸代さん

県民文化普及事業「兵庫短歌祭」が天候にもめぐまれ多数の中学、高校生も参加し行われた。短歌祭は矢野一代氏の司会で始まり、安藤直彦歌人クラブ代表による開会の挨拶。「短歌は個人の思いのなかで詠むのが基本だが、多くの目に触れることにより作品として完成する面が強い。人とのつながりのなかで共有財産として詠む場が歌人クラブの存在意義だと思う。」続いて兵庫県芸術文化協会専務理事正垣昭彦氏が「平成元年から始まった兵庫県の文化祭は今年25回目の記念すべき年。今年は県下各地で23の文化事業がこころ豊かな兵庫づくり人づくりをめざして開催されている。日本人の心そのものを伝えてきている短歌を広めていただきたい」と述べられた。

今年の「兵庫短歌祭」の応募数は一般部門５０３首、ジュニア部門５３０首。一般の部入賞者13名、入選10名、佳作12名。ジュニア部門入賞者11名、入選23名が受賞し表彰状と副賞が授与された。ジュニアの部では、受賞者が自分の歌を堂々とした声や少し恥ずかしそうな声で発表する姿が印象的だった。講評は、一般の部を飯田進、来田務、尾崎まゆみ、吉田千代美、小畑庸子各幹事が、ジュニアの部は安藤直彦代表が担当した。

休憩の後、「短歌―何を、どう詠うか―『よい歌』をめぐって」の鼎談。先ず中川昭氏（海市）が各氏の経歴を紹介。石橋妙子氏は歌歴60年、「潮音」選者、「花鏡」主宰者。『花鏡』『潮境』など歌集多数。歌人クラブ顧問。藤岡氏（コスモス）は、第一歌集『真如の月』で第二回筑紫歌壇賞受賞。歌集『白鳥よ』。小林氏（玲瓏）は塚本邦雄に傾倒し作歌を始める。「玲瓏」の選者。歌集『裸子植物』『探花』。

石橋妙子氏を中心に藤岡成子氏、小林幹也氏が短歌に対する思いを石橋氏に問いかけつつすすめられた。

次に藤岡、小林両氏が選んだ石橋氏の16首の歌から「何をどう詠うか」の視点でピックアップした歌に関し、質疑応答の形式で進行した。後半は石橋氏の自選歌を両氏が個性豊かに語られた。石橋氏による短歌観「日常のささいな見落としがちのことを平明なことばで、できるだけ内容は深くと心がけたい。なんとなくすとんと入ってくる発想の素晴らしいのはよい歌。過去は捨てさるもので嘆くことをしたくない。」自立した女性の凛としたことばにすがすがしい思いを感じた。参加者のそれぞれが充足した会であった。

（詳しい内容は次ページに記載）前田昭子副代表の閉会挨拶の後、午後４時半終了。参加者１２０名。

（森嶋郁子）

芸術文化協会正垣昭彦氏の挨拶

鼎談「短歌―何を、どう詠うか―『よい歌』をめぐって」

よい短歌とは、どういう短歌なのか。今回、この問題をめぐって、石橋妙子さんを迎えての鼎談ができたことは、たいへん貴重なことであった。というのは、石橋さんは、兵庫県歌人クラブの顧問になられて以来、ご自分よりも若い世代に表舞台を譲るというご意志が非常に固く、これまでは依頼があっても断ることを常としてきたからだ。このたびは、安藤直彦代表の二時間にわたる、粘り強い依頼、懇願、説得により、ようやく壇上にあがる決意をされたという。

石橋妙子氏

鼎談は、中川昭さんの司会により、藤岡成子さんと、私（小林幹也）が、石橋さんに質問を投げかけるという形で始められた。そのために事前に、藤岡さん、それから私が石橋さんの短歌から、それぞれ話題にしたいものを十六首選び、それに基づいて話が進められた。

・亡き友の携帯アドレス残しおき春節祭の龍を見にゆく　『潮境』

私がとくに注目したのは、この一首。これは石橋さんの最新歌集『潮境』のなかの一首だ。上句で、「亡き友」を忘れたくないという強い思いが言いあらわされていながら、下句において、その自分のなかに強くとどまるその思いをそのまま読者に投げ出してしまうのではなくて「春節祭の龍を見にゆく」という具合に、行為によって、つまり動きによって、そのとどまる思いを中和させてしまう。春節祭に行くのは、気晴らしであり、悲しみを解消するためのことでもあろうが、心を整理してゆく過程そのものを見せてもらえることにより、読者としても、ほっと一息つくことができる。

石橋さんの短歌は、この一首ばかりでなく、総じて、このような読者への気遣いが感じられる。読者の胸をもたれさせない気遣いであり、悲しみを悲しみのまま決して投げ出すことをせず、必ず幾分か、おかしみのスパイスを振りかけてから提示する姿勢でもある。無造作に作者の思いを読者にドサッと投げつけるのではなく、読者が受け止めがたい思いに困惑しないような配慮がほどこされている。それはまた作者の、読者に決して同情なんてされたくない、甘えたくない、お涙ちょうだい式の短歌はつくるまい、という決意でもあるように見える。

この点を、石橋さんにぶつけてみたところ、石橋さんは、自分は短歌的抒情というものをある面、信用しているが、短歌的抒情のなかでも、べたべたしたものは嫌いだという。さらにつづけて、こうおっしゃった。

読者あっての短歌であることは事実であるが、短歌は読者におもねるようにつくる必要はない。ましてや、読者に寄りかかるような短歌を自分は決してつくりたくない。愚痴っぽい短歌も、湿っぽい短歌も自分は大嫌い。だから常に自分の周りの者たちにも、大正、昭和初期に見られるような、べたべたしたものが短歌だと思わないようにしなさいと指導している。そういうお話だった。

もちろん私がこの点を突いたのは、石橋短歌に「湿っぽいでれでれした詠嘆調」ばかりで終始しない工夫が施されていることに、驚いたからである。そういう詠嘆調に陥ってしまいがちなところが、たとえばかつて小野十三郎が指摘したように、短歌の弱点であり、それに対して、私自身はこれまで個人的なことを決して詠むまいと心に決め、短歌のなかに物語性などを取り入れ、それに自分の思いを響き合わせる形で表現しようとしてきた。それだけに、石橋短歌の手法が自分のしてきた手法とはちがうものの、同じ目的から発したものとしてたいへん興味を抱くようになっていたのである。

石橋さんはそんな私の試みに一定の理解を示しつつも、ご自分は、ささいな日常のなかから、多くの人が見落としてしまっていることに注目して、そこから、詠い始めたい、というお考えであった。

たとえば春節祭の歌においては、上句の「亡き友の

藤岡成子氏

結社（グループ）	会　場	内　容	問い合わせ先
明石短歌会	明石公園会議室	第１・３木曜、午後	078（912）2673　田岡　弘子
とべら短歌会	赤穂市民会館	第４土曜、午後１時30分	0791（48）0137　尼子　勝義
		第４水曜、午後６時	
	上郡山野里公民館	第４土曜、午前９時30分	
海市短歌会	婦人会館（神戸市中央区）	第４日曜、午後１時	078（371）0239　中川　昭
恒屋川短歌会	香寺中央公民館	第３木曜、午前９時30分	079（232）2380　小畑　庸子
ポトナム短歌会（須磨歌会）	兵庫勤労市民センター（兵庫区）	第４日曜、午後１時10分	090－1225－1818　沢田　英史

携帯アドレス残しおき」までは事実であり、そこから「春節祭の龍を見にゆく」とつづけたところは、虚構といえば虚構であり、また落差をねらった詠い方でもあるが、しかし虚構だけで短歌が立ちあがるものではなく、事実が必要ということであった。

小林幹也氏

これについては、藤岡さんからも、石橋さんのいう「落差をねらった詠い方」を自分たちは「とばす」といっているが、石橋さんは本当に「とばす」のが上手で、付かず離れずの微妙なところで結びついているところが、いつも感心するという発言があった。

つづけて今度は、藤岡さんから、次の二首が挙げられた。

・椿道つきたる涯にひらけたる海にきそひて放つ草矢を　『花鏡』

・亡き人にいかに伝へむ足摺の岬の果ての荒き潮騒　『潮境』

二首ともに、足摺岬を詠んだ歌であるが、同じ所へ二回行って歌を詠む場合、どのように自己類型になることを避けるのか、という問いかけであった。これについて石橋さんは、「一度目は三十代のとき、主人と椿の枝の間をくぐって、まさに原生林を掻き分け、掻き分け、大変苦労して行った。二度目は、主人が亡くなったのち、今度は仲間たちと行った。遊歩道がきれいに整備されてあって、車椅子でも楽々行けた。同じ場所であっても、時代がちがうし、自分もちがう。また『花鏡』は、ずいぶん気負ってつくった歌集で、難しい語彙を用いた歌なども含まれているが、いまは平明でありながら、内容深く詠むことを心がけており、その詠い方にも変化がある」ということだった。

さらに、藤岡さんから、自己類型は一般的には悪いものと捉えられがちであるが、自分らしさと捉え直せば、必ずしも悪いものではないのではないか、という問いかけがあった。

それに対して、石橋さんは、できるだけ避けようと思っていながら、それでも自己類型になってしまうのはともかく、自己類型になってしまってもかまわないと開き直ってしまうのはどうか、と思う。自分はやはり自己類型はできるだけ避けるべきだと思う、と答えられた。

次に、石橋さん自身が選ばれた「よい歌」の二十首選から、そのうちの数首についてコメントをいただいた。

・自由の女神右手を高く掲ぐれどすでに輝く炬火（たいまつ）ならず　太田青丘

・晩夏光おとろへし夕　酢は立てり一本の壜の中にて　葛原妙子

自由の女神の歌は、四十九年くらいの歌であるが、このときは、まだアメリカの全盛期。そんなときに「輝く炬火（たいまつ）ならず」というところに、詩人の洞察力を感じた。詩人には、こういった洞察力、つまり先を見通す目があることが、たいへん重要という話であった。

中川昭氏

一方、葛原の歌は、「酢は立てり」という表現に驚いたという。酢は液体だから、本来は立つことなどないもの、流動していくもの、それを壜のなかでは、立っていると捉えたところが驚きだったという話であった。

さらに藤岡さんと私の自歌自選歌三首について、石橋さんからコメントをいただいたが、これは紙面の都合により割愛させていただく。紙面の都合で、鼎談の全てをここに再現するのは残念ながら、不可能である。ここに記したのは、ごく一部分に過ぎない。しかしながら、少しでも当日の雰囲気をここにお伝えできれば、幸いである。

また、このたびこのような形で、石橋さんという短歌の大先輩に、自分の思いをぶつける機会を与えていただいたことは、私自身とてもありがたいことであった。関係各位、とくに下準備に汗を流していただいた方々に感謝したい。

石橋さんは何を尋ねられても、朗らかに、率直に、正面から答えようとしてくださった。ときには笑いを誘いながら。それが、私には何よりうれしく、また、そのお答えから、私はさまざまな形で元気をいただいたような気がする。いま鼎談の直後にこの稿を記しているが、日を追うにつれ、さらにその言葉が重みをもって心に深く沁みわたっていくことだろう。

私のいただいた元気が、当日集まってくださった皆様と、またこの稿を読んでくださった皆様と少しでも共有できることを願うばかりである。

（小林幹也）

結社（グループ）	会　場	内　容	問い合わせ先
ゑちうど揖西歌会	揖西公民館（たつの市）	第４金曜	079（236）6806　上田　一成
明石大門歌会	明石市立勤労福祉会館（明石市）	第１土曜、午後１時	078（781）0846　森嶋　郁子
小野短歌会	コミュニティセンターおの（小野市）	第１日曜、午後	0794（62）2846　松尾　鹿次
下東条短歌教室	コミュニティセンター下東条（小野市）	第４日曜、午後	
東条短歌会	東条公民館（加東市）	第２日曜、午後	
美加志保巨勢教室	巨勢教室（加東市東古瀬）	第３日曜、午後	
ひだまり歌会	総合生涯学習センター（大阪市）	第２火曜、午後１時	0797（84）8881　桂　保子

ふれあいの祭典 兵庫短歌祭 入賞作品選評

文部科学大臣賞

三津野幸代（神戸市）

・ひとりひとり一人分のみ買ひてゆく
　誘蛾灯のやうな夜のコンビニ

一、二句のリフレインが耳に快い。〈誘蛾灯のやうな〉の直喩も効果的である。近頃は、どんな小さな町にでもコンビニエンスストアが必ずあり、少人数の食品を買うのに大変便利に出来ている。作者の目には、夜のコンビニに入り、ひとり分のみの食品を買っては出てゆく人間の姿が、灯火に誘われる蛾のように哀愁を帯びて映った。

現代社会の一隅の景を、言葉によって情を籠めることなく、簡潔に表現して成功した。（小畑庸子）

兵庫県知事賞

小紫博子（加東市）

・病みて農を離れし吾の触れ得ざる土
　がにほひ来雨の庭より

雨となった庭から、濡れてゆく土がにほって来る。このフレーズだけでも歌は成るが、そのにほひは、病みてより離別し、今は触れ得ざるまでになった土のにほひ、則ち生活のにほひ・農のにほひである。籠もるよりない雨の日の家内（やぬち）・雨に順応した「土がにほひ来雨の庭より」と抑制した情（こころ）の結語は力量である。一～三句までの事実の直叙を、四句五句で倒叙した感動と衒いなき心象が私を捕捉した。瑕ではないが、吾を省略すれば句跨りが消え、律が整う。

私考―（病みてより農を離れて触れ得ざる…）（野瀬昭二）

東さん（左）小紫さん代理（松尾さん）三津野さん（右）

兵庫県議会議長賞

東　陽子（姫路市）

・本当の顔見たいからそのメガネとっ
　てと幼は息とめて待つ

初句二句のあどけない幼子の言葉は受ける側にとっては人間の本質を抉られるほどの衝撃がある。その二重構造がこの歌の核となって深く重みのある一首になった。本当の顔をかくさねば生きられないのが大人の世界であり、それは幼子の純粋さを失い本来の自分を汚していくことでもある。そこを幼子の無心が突く。結句、平凡な表現ながら幼子の期待のふくらみと、その澄んだ瞳に応えられるのか、作者をそして読者を問うてくる。（青田綾子）

兵庫県教育委員会賞

鈴木紀子（川西市）

・敗戦日のラジオは知らずにはとりが
　カツカカツカと水飲んでゐた

終戦日のことを、作者は故意にだろうか「敗戦日」と詠まれている。ラジオから聞きとりにくい天皇陛下の声が全国にひびき渡り国民が涙して聞いた日である。私はこの歌を読んでいる内に下句は暗喩として、作者や国民の切なく悔しい気持ちを表現していると思った。赤い鶏冠の頭がはげしく上下する姿はあの日の人々の慟哭を思わせる。オノマトペもよくきいている。「水飲んでゐた」も餌を食べていたのではない究極の思いが伝わってくる。私たちが決して忘れてはいけない日の歌である。（池本登代子）

（公財）兵庫県芸術文化協会賞

石田昭政（神戸市）

・絵手紙の南瓜大きく熟れてをり君の
　至福を読みとりました

届いた絵手紙の大きな南瓜に驚く作者の表情がまず浮かぶ作品である。その南瓜はきっと「君」の家の作物であろう。畑仕事をしながら元気に暮らし

結社（グループ）	会　場	内　容	問い合わせ先
潮音神戸歌会	三宮勤労センター（中央区）	第1土曜、午後1時	078（441）3740　石橋　妙子
花鏡火曜教室	東灘区民センター（東灘区）	第1火曜、午後1時	
花鏡木曜教室		第2木曜、午後1時	
花鏡岡本教室		第3火曜、午後1時	
花潮会	六甲道勤労センター（灘区）	第3金曜、午後1時	
ＫＣＣ舞子短歌教室	ＫＣＣ舞子（垂水区）	第3水曜、午後1時	
ＣＯ・ＯＰ文化センター短歌教室	生活文化センター（東灘区）	第2火曜、午後1時	

ている「君」の収穫の喜びをも作者は共に感じている。ハガキからあふれんばかりの大きな南瓜に添えられた文字はほんの少しだが絵の力強さから相手の豊かな心の内を読みとったのだ。それゆえ「読みとりました」の話し言葉がこの作品に生かされている。「君」と作者の心の交流が実にみごとに詠まれている。

（矢内温代）

兵庫短歌祭実行委員会長賞

種田淑子（明石市）

・六月の鞄に詰めてあったのはマチスの画集と空の切れ端

六月という梅雨の湿潤を思わせる時候を「鞄」に見立てて、その中に「色彩の魔術師」アンリ・マチスの鮮やかな彩りの画集と梅雨空の晴れ間の青さを想起させる空の切れ端という感性に富んだ道具立てを配することで、一首が洒落たスケッチを彷彿させるような魅力ある作品に仕上がりました。

憂愁の奥に内在する、明日の希望への情熱を想像させて、人生の寓意とも読めますが、ここはそのおしゃれで清新な感覚を楽しんで読むべきでしょう。卓抜な表現能力と感性を評価します。

（髙井忠明）

種田さん（左）石田さん（中）鈴木さん（右）

兵庫県歌人クラブ賞

大林悦子（神戸市）

・不用意に発した言葉は空を切りブーメランのごと我が胸を刺す

何気なく言った、というより言葉が勝手に口をついて出ることがある。いわば心の無意識の領域からふと出た言葉。ハッとするがもう遅い。そういう言葉に限って本音だったり核心を衝いていたり。作者は頻りに反省する。

ブーメランはもともとオーストラリアの原住民が狩猟に使う「く」の字型の道具。獲物に向かって投げると旋回して再び手元に戻ってくる。

この作品は「空を切り」の措辞によって、日常の一場面が、鋭い詩的イメージの歌になって飛翔した。

（吉野節子）

同　賞

長岡一美（神戸市）

・呆けゆく父の記憶に吾の無し病院の坂道氷雨降りつぐ

父上は入院中に認知症が進んだのだろう、娘である作者さえも記憶の中から消えてしまったという。病院へ見舞っても、父上と心通うひと時を持つことはもはや叶わない。作者の深い悲しみがひしひしと伝わってくる歌である。作者の気持ちを表現して、「氷雨ふりつぐ」が良いと思った。

病院へ向かっているのか帰路なのか迷ったが、向かっていると取らせていただいた。「病院坂道」を「病院への坂」としたら明確になると思う。

（落合民子）

同　賞

矢内温代（神戸市）

・青紫蘇を「うまい」と食みて少年が少し大人の顔をのぞかす

中国原産とはいえ古来から重宝されたハーブと言ってよい。「青紫蘇」は大人の好みかもしれない。この日の献立はお刺身だったのだろう。頼もしいような思いで、お孫さんの言葉を巧く生かした。豊かな時代に育った子ら。幼いとばかり思っていると、ひとつ、ひとつ大人の言動や仕草をみせて成長する。短歌による成長記録ともなる。孫と詠わないがきっとそうであろうと思わせるところも心憎い技である。

（浮田伸子）

同　賞

栗田明代（川西市）

・窓口に薬のリスク問うわれの背後の雑談ピタリと止みぬ

薬局の窓口で薬を受け取る際の映像がくきやかに立ちあがる。病気療養中なのは作者かご家族の誰かだろうか。切実な気持ちが感情語を交えない的確な描写力で浮かび上がった。

医師の処方通りの薬と言えど副作用のない薬はないとか。作者はその「薬のリスク」を尋ねたのだ。すると「背

結社（グループ）	会　場	内　容	問い合わせ先
銀の道短歌会	生野マインホール（朝来市）	第３火曜	079（672）2334　中島眞喜子
さくら木短歌会	枚田岡会館（朝来市）	第３日曜	
東浦短歌会	東浦老人福祉センター（淡路市）	第２木曜、午後１時30分	0799（74）3800　来田　務
水甕姫路支社	姫路市民会館　指導 小畑 庸子	第３土曜、午後１時	079（232）4003　生田よしえ
香寺短歌会	姫路市香寺公民館	第２水曜、午後	
文学圏社	姫路花の北市民広場（姫路市）	月初めの午後	078（961）5676　浮田　伸子
「未来」トアロード歌会	神戸市勤労会館（中央区）	第１火曜、午後１時	078（792）9057　河村　公美

後の雑談ピタリと止みぬ」と。誰もみな不安を抱えながら（まして病人は）必死に生きている。そんなことを感じさせてくれる。大切なところを掬い上げた味わい深い作品だ。（桂　保子）

同　賞　**左川恵子**（姫路市）

・漫画読む男スマホを視る男コインランドリー日曜の椅子

まさに現代風俗の嘱目詠である。結句「日曜の椅子」の後に「に座りて」ぐらいが省略されているようだ。一首はぷつんぷつんとよく切れて四つに分かれるが、初句から二句、二句から三句への句またがりによってリズムが粘っているので、均衡がとれている。

ふと目にした状景をそのまま描いて投げ出したような乾いた歌だが、その空気感まで捉えている。生業から解放された休日の男の、弛緩したような気怠さがただよう歌である。（益永典子）

同　賞　**松田博子**（神戸市）

・二階より手摺を頼りに降りてくる溜息のやうなる夫の足音

体の不自由な夫が二階から降りてくる様子を捉えた歌である。階段を降りる夫の足音でその日の健康状態を把握しているのだろう。私が魅かれたのはその足音を「溜息のやうなる」と形容した点である。この絶妙な比喩により手摺に縋って一歩、また一歩と休みながらゆっくりゆっくり降りてくる夫の様子がリアルに目に浮かんでくる。夫を見守る作者の温かい眼指も感じられる。そしてこの夫を支えている作者の生活にまで広がって窺える作品となっている。（松田辰子）

藤本さん（左）松田さん（右）

同　賞　**藤本則子**（姫路市）

・帰還兵父がこもりし離れ家の書斎のきざみたばこのかをり

終戦で戦場から復員された父、戦場で生死を分けたすさまじい経験をされたことだろうと思う。僕のまわりにも戦場での苦しい経験を語ることなく亡くなっていった年配の人たちがいた。お父さんもそんな寡黙な人だったのだろうか。下句の具体でお父さんの姿が想像できる。戦争はいろんな人の人生を意志とは違う方向に向けてしまった。この作品の静かな立姿に好感を持ちながら、戦後の混乱期を生きたお父さんはじめその家族の姿が浮かび上がってきた。（河村公美）

入選（10名）藤木千恵子（小野）、松崎重喜（大分）、加島清子（芦屋）、岸宏輝（伊丹6歳）、羅川範子（姫路）、細川恵子（洲本）、小島和子（高砂）、芦田礼子（姫路）、内田みゆき（加西）、宮田和子（朝来）

佳作（12名）岡本光代（宍粟）、長谷川惠津子（神戸）、渡辺啓充（宝塚）、秋山洋子（養父）藤原寿子（養父）、湯口敬子（朝来）、井上敏（丹波）、上月しげ子（加東）、友次洋子（伊丹）、伊藤絹子（神戸）、石塚律子（多可）、黒崎由起子（神戸）

受贈歌誌・会報等

印南野文華、海市、薫風、幻桃、コスモス姫路、梧葉、五月風、佐用文化、白珠、すずかけ、青天、象、但馬人の歌、丹生、但丹歌人、ちぬの海、、茅花、津布良、鳶が城便り、とべら、鳥、白圭、波濤神戸、花鏡、鱧と水仙、薔薇、飛聲、ひめぢ水甕、文学圏、ポトナム姫路、美加志保、夢、旅笛、林間、玲瓏、礫、六甲、尼崎歌人クラブ会報、石川県歌人、大分県歌人クラブ会報、京都歌人協会報、短歌堺会報、新潟県歌人クラブ会報、西宮歌人協会会報、日本歌人クラブ会誌「風」、大和歌人

結社（グループ）	会　場	内　容	問い合わせ先
心の花兵庫歌会	みつなかホール（川西市）	第1土曜、午後2時	072（794）3083　足立　晶子
コスモス藍の会	姫路市民会館	第2土曜、午前10時	079（448）0895　久米川孝子
コスモス	加西市中央公民館（加西市）	第2土曜、午後	0790（42）0415　藤岡　成子
コスモス龍野	たつの市小宅公民館	第1日曜、午後12時30分	079（269）0513　飯田　進
コスモス姫路	姫路市民会館	第3日曜、午後1時	
白珠	滝野公民館（加東市）	第2水曜、午前	0795（48）3679　片山　洋子
てのひら	NPO法人てのひら（高砂市）	第1土曜、午後	079（442）2476　石原　智秋

ジュニア部門入賞入選作品選評

安藤直彦

本年は中学31校、高校6校530首の応募であった。全体を読ませていただいたまずの感想は、言葉の用い方の基本的な誤りがほとんどない、ということだった。先生方のご指導の賜物と楽しく読ませていただいた。目に触れる動植物のこと、家族のこと、部活動など学校生活のこと、友達のこと、などへの生き生きした心の働きが、ある客観の目をもってとらえられているところも心地よかった。

兵庫県知事賞
南あわじ市立三原中学校
赤松　雅

・たとえば今　私が見ているこの空を
　君も見ているそれだけでいい

「たとえば…」というフレーズには類型があろう、がそれにつづく下句がi音のリズムをもって簡潔にまとまり、おしゃれな心動きのある歌を生んでいる。「たとえば…」はあるいは、冠句として先生が歌を作らせていられることもあるのかもしれない。

赤松雅さん

兵庫県議会議長賞
加東市立東条中学校
坂本　萌衣

・帰宅して机の上に置き手紙がんばれ
　の文字とおにぎり一つ

ほほえましくも親子のきずなのよくあらわれて共感を呼ぶうた。「おにぎり一つ」がよく働いている。「帰宅して」は下に（自分の部屋に入って見ると）が省略されていて、舌足らずのようにも見えるが、難なく読み取れるところからよしとしたい。

兵庫県教育委員会賞
宝塚市立南ひばりガ丘中学校
滝井　詩乃

・病床の祖父の枕に寄っている父の髪
　にも目立つ白髪
　子どもごころに父親の老いをも気遣っている眼差しがよく伝わってくる。中学生であってこのような客観の眼がひらかれていることに気づかされもする。無駄な表現部分が無く、言い据えられている。「白髪」は「はくはつ」と読むのがいいだろう。

（公財）兵庫県芸術文化協会賞
伊丹市立笹原中学校
多田　晴貴

・うっかりと落としてしまった鉛筆を
　拾ってくれる友達がいる

言葉が言葉を呼び、小気味よく一首のよく徹ったうた。「うっかりと」が効いている。ここが「床の上に」とかであっては説明になる。さりげないおりふしの場ながら、そのすくい上げ方はなかなかのものである。

兵庫短歌祭実行委員会長賞
小野市立旭丘中学校
前田　未悠

・黄金の光いっぱい浴びながら校舎の
　隅にひまわりが咲く

太陽のかがやきそのもののように明るい力のみなぎったうた。それだからこそ「校舎の隅」の「隅」が効いてくる。日ごろ目立たなかった場所が急に光にあふれていて、それは作者のこころの姿でもあるのだ。

兵庫県歌人クラブ賞
私立愛徳学園中学校
北出　萌華

・カブト虫触った後の弟の少し火照っ
　たひまわり笑顔

仲のよい姉弟であるようだ。弟のこうした少々昂揚した「笑顔」をみることは姉としてもうれしいのだ。「カブト虫触った」という具体がいい。「ひまわり笑顔」と大胆に言ってのけたところも。

同　賞
兵庫県立上野が原特別支援学校
仲宗根琉奈

結社（グループ）	会　場	内　容	問い合わせ先
西脇短歌会	総合市民センター（西脇市）	第3水曜、午前・午後共	0795（22）1728　宮崎　修
青山短歌グループ	立花公民館（尼崎市）	第2木曜、午後1時	06（6429）5158　たなかみち
六甲西宮短歌会	今津公民館（西宮市）	第1木曜、午後1時	0798（35）9588　竹本美屋子
高嶺（神戸支部）	神戸市婦人会館（中央区）	第3土曜、午後1時	078（927）4439　伊藤　敦子
茅花短歌会	ふれあい交流館（稲美町）	第2水曜、午前9時30分	079（492）1766　前田　昭子
波濤神戸	神戸市立南五葉小学校（北区）	第4木曜、午後	078（612）9294　保田　ひで
萌木短歌会	ピフレ新長田（長田区）	第1火曜、午後	078（851）7004　改喜　靖麿

・魚捕る　そう宣言した妹は
　魚をそっとつかもうとする
　何とも味わいのあるうただ。「そう宣言した」とはいかめしく硬い表現だが「魚を捕る」ことのそうたやすくない「妹」からすればそれほどの大きいことなのだ。おそらく魚をつかむことは初めてのことなのだろう。そうした「事実」を離れても深く広がっていく不思議な感じを帯びた歌である。

同　賞
伊丹市立笹原中学校
森本　千代

・十年で伸びた私の影ひとつ
　景色変わらぬ鳥取砂丘
　子供のころの十年の身長の伸びはいちじるしい、その変化著しい自分を変化のない砂丘をあるきながらみつめているのだ。上句と下句の対応よろしく味わいのこもったうたとなった。

多田さん（左）前田さん（中）北出さん（右）

同　賞
小野市立小野南中学校
宮本　香乃

・鬼ヤンマうち重なって蓮の
　葉にお日さま色の眼で一休み
　交尾している「鬼ヤンマ」であろう、その様をよく観て、しかも単に見たままでない、内の眼でとらえた表現になっていてやさしく愛らしい味わいがある。名詞がたくさんあるがつながりもいい。

同　賞
香美町立村岡中学校
山根　朝香

・雨は好き私をにぎる君の手
　はすこしぬれててとても優しい
　中学生らしい、初々しい情感のよくこもった恋のうた。初句「雨は好き」は、下の「少しぬれてて」とつながってよく働いている。「私をにぎる君の手は」など、「初々しい」などといってられないのかもしれない。

同　賞
私立日生学園第三高等学校
山﨑　出

・歴史って愛と戦争のラビリンス今にも続く風の足跡
　ある意味、生意気盛りの高校生、なかなかしゃれた言い方をするものだ。「風と共に去りぬ」か何かの映画からの刺激からであろうか。よくわからないが何かしら捨て置けない風をしたうただ。どんな高校生か一度本人に会ってみたい。

ジュニア入選者

入選（23名）
加古川市立平岡南中学校　**鈴木　大介**
三木市立星陽中学校　**五百蔵葉月**
加東市立東条中学校　**鷹尾　綺紗**
加東市立東条中学校　**小東　優駿**
南あわじ市立三原中学校　**堀川　紗希**
南あわじ市立三原中学校　**新田　友美**
南あわじ市立三原中学校　**村上真梨那**
姫路市立神南中学校　**松田　祐人**
宝塚市立西谷中学校　**前中のぞみ**
加古川市立氷丘中学校　**高橋　司**
加古川市立別府中学校　**山本　梢香**
伊丹市立笹原中学校　**井上　楓雅**
三木市立緑が丘中学校　**池上　涼香**
朝来市立朝来中学校　**古田　麻奈**
宍粟市立波賀中学校　**藤原麟太郎**
加古川市立両荘中学校　**藤本　愛**
美方郡香美町立村岡中学校　**岡　愛香梨**
宝塚市立安倉中学校　**中島　麻琴**
兵庫県立山崎高等学校　**宮田　将吾**
神戸第一高等学校　**藪田　希望**
兵庫県立篠山産業高等学校　**細見　麻世**
宝塚市立宝塚第一中学校　**新谷　美波**
三木市立三木中学校　**矢代醍　静**

結社（グループ）	会　場	内　容	問い合わせ先
東加古川短歌会	加古川総合文化センター（加古川市）	第２金曜、午後１時	079（293）0956　水野　美子
林間・ちぬの海	中央公民館（尼崎市）	第２金曜、午後１時	06（6411）6516　内井　幸子
コスモス葛の花	八千代プラザ（多可町八千代区）	第２水曜、午後１時	0795（37）0680　岸本しげ子
水甕明石支社	人丸堂３階（明石市魚の棚）	第１土曜、午後	078（914）0078　向山　明子
奥播磨短歌会	加美プラザ（多可町加美区）	第３土曜、午後１時	0795（35）0489　西川　洋子

2013年度 第2回幹事会報告

10月29日、神戸勤労会館に於て開催。県芸文協専務理事正垣昭彦氏他幹事29名出席。議長髙井忠明氏を選出。安藤代表挨拶のあと、正垣氏より2014年7月16・17日開催の「NHK神戸市短歌・俳句大会」への協力要請があった。

【審議事項】

○ふれあいの祭典兵庫短歌祭

・応募作品ジュニアの部530首、一般の部503首の中より入賞作品の審議が行われ、承認された。

・短歌祭当日の司会、作品の評者等の役割は代表に一任と決定。

○年刊歌集

・全掲載作品よりテーマ毎に秀作を選び批評を会報191号に掲載顕彰する。

兵庫短歌賞

・いままでの「新人賞」の呼称を改め、「兵庫短歌賞」とし、その中に「兵庫短歌賞」「新人賞」「奨励賞」を設ける。（年度により「該当作無し」も可）

・選考委員は8名とし、全幹事により、全幹事の中から投票により6名を決め、2名は執行部の裁量により決める。

・「新人賞」については今まで通り、全幹事により5名連記の推薦によりノミネートし応募を呼びかける。

○年会費

・年1500円の値上げ案に賛成が多かったが、再検討の余地があり今回は見送りとする。

・2014年度より「年会費1000円以上」としてお願いすることに決定。

【報告事項】

○会報掲載広告

・上期発行会報に各結社広告を掲載する。一口3000円。

・下期発行の会報に各歌会広告を掲載する。一口1000円。

○年刊歌集第53集

・参加者294名。三津野編集委員長より謝意が述べられ、既に校了。11月上旬発送予定との報告があった。

○学習会、批評会、歌会

・当クラブの主催により会員相互の交流、研鑽の場を設ける。（年4・5回予定）

・第一回歌集批評会は2013年12月14日、神戸勤労会館にて、矢内温代歌集『しろがね世界』、來田康男歌集『法螺吹きの末裔』をとりあげる。

○新年懇親会

・2014年1月12日午前11時より三宮東急インにて開催。会費7000円。世話人兼貞・矢野両幹事。

○伝統文化体験教室

・2014年3月8・9日、県公館にて開催。講師は未定。

○2014年度神戸短歌祭

・4月29日13時より県民会館パルテホールにて開催。兵庫短歌賞表彰、選考経過報告、総会等、催しは検討中。

○2014年度ふれあいの祭典兵庫短歌祭

・2014年11月22日（土）加古川市民ホールにて開催。

（記録　三津野幸代）

伝統文化発信事業　「夏休み親子体験教室」

7月27日　兵庫県公館

「今こそ短歌を」　船橋貞子

蝉しぐれふる県公館和室に於ての親子短歌教室。飛び入りのご婦人もあり盛り上る。短歌は「昔々奈良東大寺の大仏様が造られた以前から今まで千三百年以上続いている詩の形。約束事はただひとつ五七五七七の調べにのせる事それだけ」と俳句とも比較しながら作成してきたプリントや板書で分りやすく話す。皆目をきらきらさせて聞いている。

なかに中二と小三の姉弟がいて何か違うなと、聞いてみると百人一首に親しんでいると言う。嬉しくなる。

さて実作。昨年の「小野市短歌フォーラム」の小、中学生優秀作品より四句目又結句を空白にしてクイズ方式で言葉を選んでもらう。ユニークな歌となりこちらも感激。

さあそれではと一首作り、安藤代表に添削して頂き、助詞のひとつで歌が変ることを皆実感し、短冊に清書する。

日本は四季ある美しい国、目を自然や家族に向けて見た事感じた事を歌に詠もうと約束。半時間も超過して散会。実りある会であった。

（安藤・廣庭・船橋出席）

和やかな実作風景（県公館）

結社広告

白圭

編集委員　内海永子　鎌谷克子　川上千鶴子　塩澤文子　首藤幸子

発行所
〒679-4003　たつの市揖西町小神 297-1
内海永子方
白圭社
☎(0791) 63-4734

≪受賞しました≫

＊西宮歌人協会――西宮市文教都市　50周年記念文化功労賞

＊浮田伸子氏――兵庫県ともしびの賞

＊黒崎由起子氏――神戸市文化活動功労賞

＊足立晶子氏――平成25年近畿ブロック優良歌集賞

2013年度　兵庫県歌人クラブ
「兵庫短歌賞」作品募集要項

資　格　兵庫県歌人クラブ会員及び県下在住・在勤・在学者
作　品　未発表短歌２０首
様　式
1．作品はＡ４判 400 字詰め原稿用紙２枚に浄書、右肩を綴じる。
2．１枚目の欄外に作品表題と新旧仮名遣い別を記入する
3．作品表題・氏名・生年月日・郵便番号・住所・電話番号・所属結社名を記入した表紙をつける
4．封筒の表に「兵庫短歌賞応募作品」と朱書きする
応募料　2,000 円（作品に同封、切手不可）
締　切　2014 年2月 10 日（消印有効）
宛　先　〒 666-0261　川辺郡猪名川町松尾台４－４－３３
吉野節子方
兵庫県歌人クラブ「兵庫短歌賞」係
選　考　兵庫県歌人クラブ兵庫短歌賞選考委員会
発　表　会報第 191 号紙上
表　彰　2014 年４月 29 日　兵庫県歌人クラブ総会、神戸短歌祭会場

※本年度より、今までの「新人賞」の呼称を改め、「兵庫短歌賞」とし、その中に「兵庫短歌賞・新人賞・奨励賞」を設け、年度作品によって選考委員会が判断（「該当作無し」の場合もある）することとなりました。

地区通信

【阪神】 5月18日、尼崎中小企業センターにて尼崎歌人クラブは総会と講演会開催。講師は尾崎まゆみ氏「山中智恵子の魅力―おもに抒情について」。参加者80名。▼9月14日、大阪弥生会館にて日本歌人クラブは近畿短歌大会開催。沢口扶美、吉川宏志、安田純生各氏による鼎談「家族をうたう」。平成25年度近畿ブロック優良歌集賞『ひよんの実』の足立晶子氏の表彰。参加者140名。▼11月4日、西宮中央公民館にて西宮歌人協会短歌大会開催。講演小林幹也氏「小説家と短歌―阿部昭を中心に」。出席者井上美地氏他45名。（たなかみち）

【神戸】 5月25日、布引の滝にて海市吟行会。中川昭氏他9名参加。▼5月29～30日、福井市三方五湖にて花鏡夏季合同吟行会開催。参加者22名。▼6月1日～3日つくば国際会議場にて長風全国大会開催。関西支部より5名参加。▼8月5日、伊藤道子氏（長風）逝去。享年94歳。▼9月22日～23日、チサンホテルにて海市20周年祝賀会及び海市全国大会開催。祝賀会参加者福島泰樹、沢口芙美、阿木津英、楠田立身、土居正、安藤直彦各氏ら74名。▼9月29日、相楽園会館にて黒崎由起子氏は神戸文化活動功労賞受賞。▼10月30日、文学圏は豊岡市コウノトリの郷、出石城等にて吟行。21名参加。（黒崎由起子）

【明石】 5月25日、明石勤労福祉会館にて明石ペンクラブ総会開催。出席者16名。当日作品集『明石大門』33号発刊。特集、明石市内の51箇所の万葉歌碑のうち3箇所を野瀬昭二、伊藤敦子両氏が記事担当。▼8月24日、明石市立勤労福祉会館にて明石ペンクラブ例会を開催。『明石大門』33号の短歌部門の合評会にて野瀬昭二、伊藤敦子両氏の作品が取り上げられる。（伊藤敦子）

【姫路】 11月17日、宮柊二記念館にて第19回全国短歌大会開催。赤藤緑氏（コスモス）秀逸。▼11月24日、上郡町生涯学習支援センターにて上郡町短歌大会開催。選歌と選評上田一成氏。（上田一成）

【東播】 9月18日、稲美町立天満小学校六年生の短歌指導を茅花短歌会5名が行う。▼10月18日、長野県万葉の会が稲美町万葉の森に来訪。松田和薫氏万葉歌解説、前田昭子氏万葉衣装で朗詠。（前田昭子）

【中播】 8月3日、福崎町文化センターにおいて第28回山桃忌奉賛短歌祭開催。出詠270首。入賞井奥輝明、青田綾子両氏他6名。選歌と選評は楠田立身氏。▼8月31日、香寺短歌会所属金川よね子氏は百歳を記念して歌集『夕顔』を出版。▼9月、小畑庸子氏は角川全国短歌大会の選者を務める。▼9月21日、吉永明

結社（グループ）	会　場	内　容	問い合わせ先
新月芦屋支部	芦屋市民センター（芦屋市）	第３土曜、午後	078（733）8569　西村　郁
宝塚白珠の会	宝塚東公民館（宝塚市）	歌会	072（794）0614　星野　敏江
塔姫路歌会	城南公民館（姫路市）	第２日曜、午後１時	078（581）1443　古林　保子
さつきよ・城山短歌会	南光文化センター	第２火曜、午前９時30分	0790（79）3231　船引・尾上

兵庫県歌人クラブホームページアドレス　http://hyougokenkazin.jimdo.com/

追悼

畏友・河野光明さん

河野さんは「あけび」に所属し、花田比露思を師承とする結社であり、私ども「高嶺」と覚悟を同じうする。つまり正字、正漢字、正仮名遣いを作歌以前の心構えとしていることである。河野さんとは　大きな同行者を得る思いで心が潤っていた。

兵庫県歌人クラブ幹事として　明石地区通信委員、行事イベントの実行委員、シンポジウムの司会進行、大会での批評と多々活躍された。

また、生田神社の「曲水の宴」には、二年つづけて共に参宴した。直衣姿が端正な容姿にひときわ似合っていた。

兵庫県歌人クラブの年刊歌集も、今年は五十三集となる。

私が編集に携わっていた頃を含めて、長歌で参加した者は一人もない。送られてくる結社誌は多いが、長歌の載る歌誌は一誌もなかった。

河野光明さんが明石ペンクラブの「明石大門」に長歌で参加を始めてから数年が経つ。

河野さんの作品は、くり返し誦唱するほどにリズムが生まれて来、内在の情(こころ)が伝わってくる。現今の歌人と自称し短歌を弄する者は多いが、長歌に心情を移す者は寡聞にして知らない。河野光明さんは稀有の歌詠みであったのではなかろうか。

ご逝去平成二十五年三月二十五日、七十七歳であった。

長い友情が去来した。

畏友であった。　野瀬昭二

神戸人　伊藤道子さん

平成二十五年八月五日、兵庫県歌人クラブ事務局長を務められた伊藤道子さんが逝去された。享年九十四歳。

その朝、眠ったまま逝かれた伊藤さんを介護士さんが発見。机上に投函を待つ文字美しい手紙が亡き人を偲ばせた。

伊藤さんはかつて阪神淡路地震に遭遇されていた。一瞬の揺れに物が倒れ、散乱。扉も窓も開かない部屋に一人閉じ込められていた。家に炎が迫ってくる。必死に叩く窓、行きずりの人がガラスを叩き割って助けてくれた。壊滅した街を彷徨いながら、伊藤さんは寸ほどの鉛筆を拾われた。嬉しかった…歌が書ける、伊藤さんは歌人だった。そして責任を忘れない人だった。歌人クラブ会員の多くも罹災、大きな怪我、命を落した人はなく幸いだったがその居所の確認は大変、辛抱強く続けて下さった人々、その内の一人が伊藤さんだった。

早く自宅を再建された伊藤さん、歌集『白木蓮』に「ふるさとの無き二人子となさぬため建てし家…」がある。子らの故郷神戸、亡きご夫君の魂鎮まる地、神戸。神戸を愛した歌人、伊藤道子さん。

平成五年、「長風」選者に就任、それより長風関西支部メンバーとして四十余年、支部を支えられた伊藤さん、告別式の日、別れを惜しむ人々の献花に埋もれたお顔が安らかだった。　尾上田鶴子

代氏（水甕）は日本歌人クラブ主催、第34回全日本短歌大会に優良賞受賞。

（生田よしえ）

【北播】 6月1日、小野市うるおい交流館エクラにて第5回小野市詩歌文学賞・第24回上田三四二記念小野市短歌フォーラム開催。詩歌文学賞高野公彦、伊藤一彦両氏（短歌部門）。応募数一般の部1353首、学生の部5371首。入選者一般の部一席石原安藝子氏（加古川市）、学生の部最優秀岡本拓己さん（小野市大部小3年）。出席者小野市長蓬莱務、馬場あき子、永田和宏、宇多喜代子、安藤直彦各氏等510名。▼6月30日、小野市伝統産業会館大研修室にて第56回北播短歌大会開催。応募数一般の部240首、学生の部136首。市長賞井口通子氏（三木市）、学生の部入選岡蕗奈さん（小野中3年）。出席者140名。▼9月14日、小野市文化祭文芸大会短歌の部をコミセンおのにて開催。応募数60首。市長賞楊井佳代子氏（加西市）。出席者35名。▼10月13日、西脇市総合市民センターにて第57回短歌大会開催。応募数一般の部163首、学生の部279首。選者一般の部藤岡成子氏、学生の部西脇短歌会。一般の部特選一席朝日弘茂氏（西宮市）、学生の部特選藤本名南子さん（西脇中2年）。出席者30名。▼11月2日、滝野文化会館にて第8回加東市短歌大会開催。応募数一般の部90首、ジュニアの部132首。一般の部市長賞澤村千代子氏（神戸市）ジュニアの部入選小紫聖矢さん（福田小5年）。出席者加東市長安田正義氏他35名。▼11月10日、アスティアかさいにて第47回加西市文化祭文芸祭開催。短歌応募数一般の部175首、ジュニアの部269首。選者一般の部安藤直彦氏、ジュニアの部加西短歌の会役員3氏。一般の部市長賞河原すみ子氏（畑町）、ジュニアの部大西礼さん（泉小5年）。出席者加西市長西村和平氏他35名。同日、三木市細川町公民館にて第38回藤原惺窩まつり開催。短歌の部応募数18首、学生の部120首。選者藤原正明氏。入選一般の部常下英子氏（細川町）。学生の部中井一真さん（豊地小6年）。出席者25名。

（松尾鹿次）

【西播】 6月22日、佐用文化の会（短歌・俳句）は、阪南西行終焉の地など吟行旅行。40名参加。▼9月6日、佐用町立徳久小学校へ短歌指導。講師新家イサ子氏。▼9月28日、作用情報センターにて佐用郡

秋季短歌大会開催。応募総数43首、小・中学生の部260首。大会賞上村哲代氏。参加者39名。▼10月4日、佐用町立上月小学校へ短歌指導。講師安藤直彦氏。▼11月1日、作用情報センターにて佐用文化祭短歌大会開催。大会賞吉田照子氏。参加者24名。(安藤直彦)

【但馬】 1月21日、やぶ短歌会『年刊歌集　山茶花』44号発行。▼2月15日、新温泉町にて第18回「前田純孝賞」学生短歌コンクール審査結果発表。応募数4648首、選者佐佐木幸綱氏。前田純孝賞　中学生の部海金寛喜さん兵庫県立神崎高校)。▼4月18日、豊岡市民会館にて「但丹歌人会・春の大会」開催。▼6月1日、豊岡市民プラザにて尾形貢歌集『水の呼吸』を語る会開催。▼7月6日、ホテルオークラ神戸にて尾形貢氏は「半どんの会文化賞」の芸術文化功労賞受賞。▼8月24日～9月1日、新温泉町浜坂先人記念館以命亭にて「歌人佐佐木幸綱と前田純孝展」開催。▼8月25～26日、「心の花」全国大会の観光オプションにて、新温泉町・鳥取県の佐佐木幸綱・佐佐木信綱歌碑めぐり。▼10月10日、城崎リバーサイドホテルにて但丹歌人会「秋の大会」開催。講師江戸雪氏。▼11月3日、和田山ジュピターホールにて「和田山短詩型文学祭」表彰式。選者安藤直彦氏。▼11月16日、但馬文教府にて「但馬文学のつどい」開催。(足立勝歳)

【淡路】 6月2日、洲本図書館にて第32回全淡短歌祭開催。応募数一般83首、ジュニア2首。淡路文化団体協議会会長賞大西和美氏、淡路文化協会会長賞木下昭美氏。淡路歌人クラブ賞(参加者互選)優秀賞上山照香氏。講演尾崎まゆみ氏「短歌の楽しみ」。(来田　務)

(お送り戴いた通信は会報の形式にそって編集させていただいております。)

「神戸短歌祭」のお知らせ

日　時　2014年4月29日(祝日)
場　所　県民会館11Fパルテホール
内　容　「兵庫短歌賞」表彰・総会
「歌合せ」　判者　大辻隆弘氏(未来)
歌人　未定

☆　新年懇親会のご案内　☆

恒例の新年懇親会を下記のように開催します。
お誘いあわせの上ふるってご参加ください。

記

日　時　2014年1月12日(日)11:00～14:00
会　場　神戸東急イン3F
(JR三宮駅勤労会館西側)
℡078－291－0109
会　費　7000円(当日受付)
申　込　1月4日までに下記宛てにお申し込み下さい。
〒673-0424　三木市自由が丘本町2-232
兼貞方　兵庫県歌人クラブ「新年会」係
℡0794－83－0803

受贈歌集・歌書

☆『**倉地与年子全歌集**』
石橋妙子編集　短歌新聞社

☆**歌集**『**潮境**』
石橋妙子
24年12月25日　角川書店

モンブランの万年筆の書き心地なめらかゆるがずあなたのやうな

☆**但馬人の歌・四**　足立勝歳
(但馬の歌人の短歌評集)

☆**合同歌集　萌木　第2集**

こともなくあの世とやらを説く僧侶この世の人のつくりし虚構で
改喜靖麿

☆**歌集**『**銀いろの凧**』
武内敏子
友月書房

永らへて独り生きたる歳月もいまゆるやかな河口のあたり

☆**合同歌集　ともしび　第29集**

そよ風に運ばれきしかくもの子は陽に透きながらばらの芽登る
牧野秀子

☆**第24回上田三四二記念小野市短歌フォーラム　作品集**

少年の背負へる白き楽器ケース羽化せまりたるやうにふくらむ
石原安藝子

☆**自選歌集ふれあい26号**
山の街短歌会

万雷の拍手をもって送りたしわれらがヨッチャン春日野八千代
浅井和子

☆**合同歌集　どるふぃん第11号**

入院の亭主に告げん達者でも留守がいいとはもう言いません　上杉泰子

☆**歌集**『**法螺吹きの末裔**』　來田康男
7月19日　ながらみ書房

応接の悪しき店員のスーパーがさら地となりて青空涼し

☆**歌集**『**さくら　待つ**』　三好美奈子

いつまでと思ふこころに桜待つ、山少しけさはいろを変へたり

☆**歌集**『**愛日**』　工藤　章

里山に妻の摘み来したらの芽を線量気にせず天ぷらとする

☆**歌集**『**しろがね世界**』　矢内温代
8月10日　柊書房

夫逝きて後に買ひたる歯磨きが今朝で無くなるわれは生きぬて

☆**歌集**『**たゆたう　ど　神戸**』
私家版　竹村晴子

インド洋染めて夕陽が沈む時引き込まれまいと足を踏ん張る

☆**歌集**『**残照の野に**』　水本　光

定年のなき農業の苦しみを内に秘めたる地下足袋を履く

☆**歌集**『**風日**』　十鳥敏夫

うづたかき落葉踏みつつ本来のわれを探しをりうぶすなの山に

☆**歌集**『**紫煙のゆくへ**』　米山髙仁

春の野に野蒜摘みゆく老いし父肺癌の身に紫煙くゆらす

◇**余滴**◇本年も歌人クラブの諸行事にご協力戴きありがとうございました。良いお年をお迎えください。(山中)